

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500080		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原真菅(すみれ)		
所在地	奈良県榎原市曾我町343		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku_ip/29/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2990500080-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になられても住み慣れた地域で散歩や買い物に行ったり、お花見に出かけたり、大成中学校の体育大会を観覧したりして生き生きと生活されています。真菅小学校4年生とのホットケーキパーティー、まずげ幼稚園とのクリスマス会を通して、多くの子もたちとの触れ合いを楽しまれ、生活に潤いを感じていただけています。ホームにある庭ではガーデニングに汗してください、春のえんどう豆・秋のさつま芋の収穫、花の栽培で季節を感じて生活していただいています。皆様おしゃれをされ、総出で訪れるイオンモール榎原アルルでは、お好きな食事を召し上がり、お買い物もされています。個人の特性を考慮して参加していただくパッチワーク(ボランティア講師を招聘)、「真菅小学校区ふれあい交流会」、「曾我町夏祭り」も合わせ、楽しんでいただける要素が盛りだくさんのホームに成長してきました。利用者様が出来ることに継続して取り組んでいただきながら、それぞれの思いや願いを汲み取り、質の高い介護を実現していく所存です。職員一同が自己研鑽に努め“笑顔が溢れるホームづくり”を目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になられても住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるホームとして、一人ひとりに寄り添う個別ケアを心がけている。生き生きとした生活につながる支援を考えながら、職員一体となって取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。地域の神社へのお花見、近所のお店への買い物など地域の一員として暮らす場面を大切にしている。公民館の行事(映画鑑賞会など)や夏祭りにも利用者様の特性を考慮しながら参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象とした介護相談を行っている。また、真菅小学校の「認知症キッズサポーター」の学習活動と連携し、管理者による出前授業や児童を招いたホットケーキパーティーなどで交流の機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催。家族様、榎原市職員、地域包括支援センター、自治会長、介護相談員に参加をお願いしている。活動報告、質疑応答を通じた意見交流を行い、サービスを見つめ直す機会をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、地域包括支援センターに事業所発行の「ほほえみ通信」を毎月配布している。また、利用状況についてお知らせし、サービスを必要とされている方の情報をいただくなど、運営面でも協力関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「高齢者虐待防止マニュアル」を基に身体拘束をしないケアを実践できている。職員の組織体系に「リスクマネジメント・身体拘束廃止委員会」を設置。月1回の会議において実践を振り返り、内容を職員全体に広げること、より一層の理解を促している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の職員研修計画の中で「高齢者虐待防止」を取り上げ、実施している。職員全体で利用者様を尊重する姿勢に留意し、肯定的な言葉遣い、受容・傾聴する姿勢、同意を得たうえでの介護の実施を心がけている。		

ニチイケアセンター榎原真菅(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の職員研修計画の中で「権利擁護」を取り上げ、学習の機会を確保している。また全職員に占める介護福祉士の割合が増加しており、専門性がより高まる中で個々の理解も深まっているように感じられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を提示しながら直接お話し、丁寧な説明に努めている。理解・納得をいただくのに十分な時間を確保し、最終的な合意のもとに署名捺印をいただいて契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等でご意見を積極的にうかがっている。その内容については文書化し、全ての家族様に共有していただけている。またホーム来訪の際に、職員と遠慮なく話せる雰囲気作りに努め、実行できている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議での質疑応答のほか、各委員会での検討を経た提案、リーダーが集約した各フロアの意見を運営に生かしている。多くの目で、さまざまな切り口から課題を発見できるよう、個々の気づきを重視している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度、チャレンジシートによる評価など、職員の意欲と質の向上につながるシステムがある。「有給休暇を取りやすい職場にする」との目標を掲げ、ゆとりのある労働環境の整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「ケア・教育・研修委員会」を中心に、職員が研修の運営を担う。それぞれを研修の主体に位置づけることにより、個々の知識と技術を高めるねらいがある。職場外からの講師招聘、外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社からの勧めもあり、ネットワーク作りや勉強会に積極的に参加している。介護職員レベルでも近隣の拠点と交流し、特に利用者様のレクリエーションについて学ぶ機会を持てるよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様の協力も得て、利用者様の情報を整理し、希望や意向の把握に努めている。新しい環境の中でも安心感を持っていただけるよう、数多く丁寧に接しながら、会話や表情から意志を汲み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意向を理解するために、直接お話しできる機会を多くいただけるようお願いしている。生活の様子をお知らせすることから始め、来訪の際にも気兼ねなく情報交流できる雰囲気を作り、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活になじんでいただき、ご本人の希望や課題を理解して支援することを目指している。ホームでの対応以外にも、必要なサービスをともに考えて提案を行い、より充実した個別ケアを目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事・花作り・調理・裁縫など、得意とされているなじみの仕事を続けていただくことで、生活の主体となって暮らせる環境を作る。気楽に話せるなど、居場所を実感していただく場にすることに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や季節行事など、ホームに家族様が気楽に来ていただける機会を企画している。また、ケアプランにおいても、家族様の役割を提案するなど、利用者様への働きかけを共有しながら支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームを家として出入りしやすく、明るい雰囲気のある場所となるよう努めている。家族様だけでなく、近所の方、老人会の方が来訪されている現状である。外出や買い物など、なじみの生活の継続にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、誕生日のお祝い、会食、作品づくりなど、毎日の生活場面を共有してなじみの関係を築いていただいている。職員は利用者様同士の「つなぎ役」となり、円滑な交流の支援を行っている。		

ニチイケアセンター榎原真菅(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も許される限り家族様に連絡を取り、お変わりがないかなど個人情報にふれない範囲でお話を聞かせていただいている。お困りのことがないかもうかがいながら、縁を大切に聞かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様や利用者様本人からの十分な情報収集をもとに、ホームでの生活に向けた話し合いを行っている。思いや意向の把握にセンター方式を取り入れ、利用者様を中心に据えた個別ケアを心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談は、現在の生活状況を知るためご自宅にて行うことがほとんどである。その方のありのままの姿を見ながら本人様、家族様とお話し、なじみの物や事柄についてしっかりと聞き取らせていただく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現場スタッフからの情報の取り入れ、ご本人とのコミュニケーションをもとに心身の状態の把握に努めている。蓄積した介護記録から「この方はこれも出来るのではないか？」というチャレンジの気持ちを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の更新、身体状況の変化による計画見直しに際しては、必ずモニタリングを通し、意見を集約しながら進める。多角的な視点から従来のケアを見直し、家族様とも相談して新たな方向性を定めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入内容に独自の方法を工夫している。「短期目標」の項目をそのまま記載し、毎日の実践をもとに達成状況を振り返る方式である。介護計画書に沿ったケアの実現に効果をもたらしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を取り、24時間対応の訪問看護の導入を行なった。他にも歯科・理美容・パッチワーク・訪問パンなど、協働していただける地域資源を積極的に取り入れ、利用者様の生活の質の向上に寄与している。		

ニチイケアセンター榎原真菅(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館行事・夏祭りへの参加、中学校の体育大会見学、小学校の福祉学習との連携、幼稚園との交流会など。季節的な行事を地域の方々と過ごすことで、暮らしに楽しみを見出しながら過ごしていただけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内に提携医が存在し、月2回の往診をお願いしている。訪問看護・歯科・皮膚科など幅広い連携も得られ、往診に対応していただけている。家族様と相談のうえで、なじみの病院に通院していただくケースもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受診している。24時間体制の医療連携であり、緊急時にも電話にて連絡し往診していただける。短い間隔での訪問で、日常の気づきを気軽に相談でき、適切な看護の受診が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いとうかがい、現在の身体状況や退院の見込みについて病院関係者との相談を十分に行っている。当所からも介護サマリーで生活や身体状況・服薬の種類について情報を提供し、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を取り、「看取り」が可能な施設となった。入居の時点で十分な説明を行い、終末期の方針を確認する手続きを取っている。退去される場合は他業所と連携を図り、スムーズな移動ができよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急体制マニュアル」が整備されている。「防災・環境美化委員会」を中心に緊急時の対応について話し合い、職員研修にて毎年確認・共有している。対応法は掲示物化し、とっさの状況に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施。地域の方の参加もある。避難経路や防火設備の確認はもちろん、個々の利用者様の避難方法、異なる火元を想定した避難経路についても考え、より実践的な備えを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、収集した情報から得た介護方針を職員が共有している。自尊心を傷つけない対応の仕方、特に傾聴の姿勢で否定的な言葉を避けること、受容・共感することに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を引き出し、自己決定を支援するため、職員との信頼関係の構築を第一に取り組んでいる。傾聴する姿勢で臨み、家庭的な雰囲気大切にしながら、話しやすさを創出できるよう留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせて自由に過ごしていただけるような支援を心がけている。居室での談笑やスポーツ中継観戦、就寝前の飲酒、歩行練習など、その人らしさを持続できる支援を意識して取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選ばれる方、化粧をされる方などに必要な支援を行っている。外出の際は、帽子・スカーフ・かばんなど「よそ行き」を意識していただける装いに配慮している。月1回の訪問理美容も設定している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスを考慮したメニュー作りをしている。会話の中でつかんだ利用者様の希望を参考にする場合もある。職員と一緒に調理をお願いしたり、食事の準備や後片付けを手伝っていただいたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が楽しみになるように、メニューの工夫をしている。また嚥下能力に応じたキザミ食やミキサー食、トロミ食の対応をしている。適切な水分摂取量となるよう、こまめに集計し、必要に応じて頻回に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科を受診し、往診の結果をケアに生かしている。介護記録にチェック項目を設け、毎食後の口腔ケアをきっちり実施している。義歯装着者には、就寝中に義歯を洗浄剤にて消毒させていただいている。		

ニチイケアセンター榎原真菅(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての利用者様がトイレでの自立排泄が可能な現状である。介護記録にチェック項目を設け、定期的な誘導を欠かさず行っている。残存能力の利用を重視し、立位補助・着脱介助など最低限の介助にとどめている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニュー野菜を多く取り入れている。朝食にミルクコーヒーやヨーグルト、夕食に押し麦ごはんや十六穀米を取り入れている。自然排便が困難な方は主治医処方の薬で排便のコントロールをさせていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回ずつ入浴いただいている。外出の都合(通院含む)、排泄による汚染の状態など利用者様の整容に合わせた入浴に努めている。人手が少なくなる夜間を避け、日中の入浴をお願いしている現状である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠を避けることを基本に考え、レクリエーション・家事活動・水分摂取・歩行練習など昼間の活動を支援している。ご本人の体調に留意し、必要に応じて日中のベッドでの休息を取り入れる場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ず複数のチェックを通し、ミスを防いでいる。薬の説明書を閲覧可能な場所に置き、職員全員が把握できる環境を整備している。薬の変更や追加があった場合は様子を観察し、医師と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・料理・掃除等のお手伝い、訪問パン屋でのおやつ選びの機会を全利用者様に提供している。塗り絵・習字・パッチワーク・飲酒など、嗜好に基づいた個別対応も行いながら、張り合いのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出、外食を年間計画に取り入れ、支援している。日常の外出も畑仕事・散歩・買い物など、利用者様の特性に合わせるかたちで実施している。希望に応じて外泊していただくこともある。		

ニチイケアセンター榎原真菅(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は一括してお預かりする方針である。ご自分の嗜好品を購入される場合などに、その都度お渡ししている。近所のスーパー・コンビニのほか、外出行事先のショッピングセンターにてお金を使う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もあり、利用者様の自由意志に基づき必要な支援をさせていただいている。手紙は受け取られる機会の方が多いが、ホームの取り組みとして毎年恒例で年賀状を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な明るさや室温に留意し、草花を飾るなど心地よい生活空間の創出に努めている。季節ごとの利用者様の作品や行事の写真を展示し、目で見ても楽しめる環境を提供することにより、生活を豊かにしていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分に合わせて多様な過ごし方をさせていただけるよう、机と椅子の設置を工夫している。小さなテーブルを囲んで談笑される方、廊下の奥の個人席でゆっくり時間を過ごされる方などニーズに応じ対応できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具やベッド・テレビが置かれ、家族様の写真やカレンダーがかかり、自室としてくつろげる空間になっている。好きなテレビ番組をご覧になったり、工作に没頭されたりして、思い思いに過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護施設として各所に手すりが整備され安全である。トイレに札をかけ、車椅子が通りやすい机や椅子の配置にするなど暮らしやすい生活空間をつくり、残存能力を生かした自立生活を支援できている。		